

川崎市環境総合研究所がめざすもの

- 川崎市には、環境を改善する過程で得られた経験と優れた環境技術が集積しているという強みがあります。
- より良い環境を次世代に引き継ぐためには、更なる環境負荷の低減等を図っていくことが必要です。また、気候変動をはじめとする多様化・複雑化する地球環境問題にも取り組んでいくことが求められています。
- こうした国内外の環境課題の解決に向けて、環境総合研究所では「研究」「調査」「ネットワーク」の3つの機能に基づく取組を進めています。

— 研究所の取り組む環境課題 —

◇ 気候変動

近年、気温の上昇や大雨の頻度の増加など気候変動による影響が現れており、都市部におけるヒートアイランド現象や気候変動への対応が求められています。

◇ 大気・水環境

大気や水などの環境は大きく改善されているものの、光化学スモッグ、東京湾の水質など広域的な課題や環境改善についての市民実感が十分とはいえないといった課題が残っています。

◇ 資源循環

プラスチックごみが世界的な課題となっており、環境への負担が少なくなるように、ごみを減らす、再利用するなどの循環型社会の実現が求められています。

◇ 自然共生

生物多様性の保全に向けて、自然や生き物への興味・関心の向上や、関連する情報の収集発信などが求められています。

持続可能な開発目標（SDGs）への貢献

職員一人一人がSDGsの趣旨を十分に理解した上で理念や目標をふまえ、持続可能な社会の実現に向けた取組を進めています。



川崎市環境総合研究所

- 事業推進担当
研修・視察対応、環境技術情報の収集・発信など
- 国際連携・研究推進担当
国際連携に関わる研究
- 都市環境担当（川崎市気候変動情報センター）
気候変動等に係る研究、産学公民連携共同研究など
- 環境研究担当
大気に関する調査研究、環境中の化学物質に関する調査研究、環境リスク評価など
- 地域環境・公害監視担当
常時監視に係る測定業務、水質・生物調査研究など

脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」への貢献

川崎市では喫緊の課題である気候変動問題の対策のため、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることを目標に取組を進めています。川崎市環境総合研究所においても、気候変動の影響をふまえた新たな視点に立ち、調査研究を進めていきます。

